

南米チリの地震による津波

本町水産業に被害もたらす

最大161センチ潮位が上昇

南米チリで2月27日午後（現地時間27日未明）に発生した地震により、28日午前9時33分、岩手、青森、宮城3県の太平洋沿岸に大津波警報が発令されました。町では午前11時30分に避難指示を発令、防災行政無線を通じて町民に避難を呼び掛けるとともに、町消防団員により防潮堤の扉が一斉に閉鎖されました。

潮位は午後2時45分に船越湾で15センチ上昇、15分後には山



潮位の下降と上昇を繰り返しながら、波が堤防を越えて押し寄せました（境田地区・撮影時刻は上が午後4時15分、下が午後4時31分＝役場屋上から撮影＝）

田湾でも35センチの上昇が観測されました。その後度にもわたり上昇と下降を繰り返し、午後5時14分には山田湾で161センチの上昇を観測。各地区の堤防は何度も波に飲み込まれました。また、織笠川と関川口の河口付近で一時的に側溝から海水が逆流し、北浜地区と織笠地区の一部で道路に浸水しました。

避難者には炊き出しも

避難指示が出された後、各地区の避難所には次々と町民が掛けつけました。津波到達予想時

刻を過ぎた午後2時には、町内全体で1170人が避難。テレビなどの情報に注目しながら、津波の状況を見守りました。

第1波到達後、数時間経過しても潮位の変化は収まらず、避難指示が長時間にわたると予想されたことから、町は夕食の炊き出しを荒川地区振興会（佐々木良一会長）に要請。50人を越える地区住民の皆さんが荒川農業構造改善センターに集まり、おにぎり620食分の炊き出しを行いました。出来上がったおにぎりは、避難していた皆さんの元へ届けられました。

水産施設に大きな被害

今回の津波では、けが人などの被害は発生しなかったものの、町内の養殖施設に大きな被害をもたらしました。大沢地区では、はえ縄施設がロープが絡むなどして211台が大破、養殖筏も約300台が破損しました。このほか、山田地区では養殖筏13台、織笠地区のはえ縄施設1台、船越地区のはえ縄施設

17台が破損するなど、町内全体での被害額は2億円を越えると思込まれています。

災害への一層の備えを

津波は後になる方が波が高くなることがあり、今回も最大の潮位の変化を観測したのは第1波からおよそ3時間経過した後でした。津波はひざ下ほどの水位でも大人を簡単に押し流してしまう力があります。第1波が小さいからといって安心せず、しばらくは警戒が必要です。

避難された方は、避難所で不便な思いをしたり不安を感じたりしたこともあると思います。しかし、有事の際には、第一に自分の身は自分で守ることが必要になります。住民の皆さんには、これからもより一層災害に対する備えをお願いします。



荒川地区の皆さんによる炊き出しの様子